



二十歳の誓い、二十歳の決意

80人の新成人が集い、華やかに挙行された

平成22年成人式

(新成人88人、出席者80人)

ここに集う若者たちの胸の内には

どんな思いが巡っているのだろう

両親や恩師たちの目には、

大きくなった彼らの姿が

どのように映っているのだろう

本号では、新たな一步を踏み出す若者たちへ

心を込めて「エール」を贈る

「最高の式典に」準備余念なく

成人式に限らず
どんな催しにも、当日の華々しさの陰には
さまざまな人が支える「舞台裏」がある
成人式前日の会場では
当日を最高の形で迎えられるよう
リハーサルなどの準備が進められていた
前日の文化会館をのぞいてみた

新成人の主張や謝辞の練習を

成人式前日の1月9日、午前10時。文化会館ホールに、新成人の主張を述べる成人代表者や式典の司会進行を務める中学生などが集められ、リハーサルが始められた。

まず新成人代表の渥美貴和さんが、式典担当者と打ち合わせをしたあとステージに上がった。マイク音量や照明の明るさを確認し、式典担当者のゴーサインで主張を述べ始める。

現在浜松の大学で多文化共生などを学んでいるという貴和さん。誰もいない館内にやわらかな声が響き渡った。文章を途中で省くことなく、約10分間のスピーチを読み切った。

上写真左から/担当者と式典の進行について確認する新成人代表の大石与夢さんと渥美貴和さん/当日の司会進行を務める梶山美帆さんと鈴木里奈さん/誰もいない会館内に貴和さんの声が響き渡る

このあとステージに上がったのは、式典の最後を飾る「謝辞」を述べる大石与夢さん(久保尾)。真つ直ぐに前を見るその瞳の先には、本当に佐藤町長が立っているかのようだ。力強い謝辞を述べ、担当者から一発OKのサインが出た。リハーサルを終えた新成人2人に話を聞いてみた。「ステージに上がって話をするのは思った以上に緊張します。明日は大勢の前ですからもっと緊張するかもしれません。でも頑張つて主張を述べます。よろしく願います」と、笑顔で話してくれた。

心のもった祝いの言葉を

リハーサルは中学生の部へと続く。新成人への祝いの言葉を

述べる佐々木ゆみさん(中川根中)が、おじぎをする場所や、壇上での立ち位置を確認し、ステージに上がる。新成人への尊敬が込められたメッセージを丁寧に読み上げた。

昨年も中学生ボランティアとして成人式に協力してくれたゆみさん。「今は、看護師になるという夢に向かって頑張つて勉強しています。新成人の皆さんのように、人の役に立つ大人になりたいです」と話してくれた。

司会進行の大役を担う本川根中の梶山美帆さんと鈴木里奈さんが、壇上のマイクの前に立つた。2人は交代しながら、一言一言セリフを読み上げ、タイムスケジュールを確認した。

特に新成人の氏名などに間違いがあつてはならないと、式典担当者を交えて入念なチェックを繰り返す。この確認作業は、実に1時間以上に及んだ。

▶司会進行の2人が持っていた台本を貸してもらった。事細かにピシッと書き込まれた内容が、当日スムーズな式典運営を実現させる。



旅立ちに Document a coming of age ceremony エールを

中川根中森下咲穂さん(指揮)、坂下奈々絵さん(伴奏)による君が代斉唱が、式に厳粛なムードを与えた。